



●JICA国内研修ゲンバ訪問記 VOL.22 博物館学集中コースの琵琶湖編 OJAMA-SHIMASU



EDITOR'S MEMO 今回紹介する「博物館学集中コース」は、博物館運営に必要な技術を磨き、博物館を通じて開発途上国の文化振興に貢献できる人材を育成することが目的だ。多くの途上国では、開発と経済成長を最優先するあまり、文化・自然遺産が適切に保護されずに失われつつあり、それらの保護・継承が重要な課題となっている。博物館は有形・無形の文化遺産を収集、保存、展示することで、国家・民族としてのアイデンティティを確立し、その地域の文化を世界に紹介する役割を果たしている。また、博物館が観光振興の要となり、地域経済の成長に貢献できるほか、教育施設としても活用することができる。

JICA大阪と国立民族学博物館、滋賀県立琵琶湖博物館が協力して行われるこの研修では、途上国の若手の学芸員などが、収集・整理・保存・展示・教育に関する実践的な技術を講義やワークショップ、日本の博物館見学などを通じて身に付ける。今年は、ガイアナ、フィジー、ペルー、ヨルダン、ザンビア、グアテマラ、コロンビア、エリトリアから10人の研修員が参加。取材した日は、琵琶湖博物館で地域住民との連携による博物館活動が紹介され、研修員自身が住民たちと交流しながら、同博物館独自の取り組みを学んだ。